

## ■ 20代・女性

20代でがんになるなんて思ってもなかったので、「早く保険に入っていれば…」と思うことが多いです。あまり若いうちから保険加入について考える機会がなく、友人にも「入った方がいいかなあ…」と聞かれたくらいなので意識・関心を向けられるような県や国のサポートがあればと思います。妊孕性の温存について、かかりつけの病院では親身に話を聞いてくださったものの、現状の県からの治療費の支援では病気の治療と並行して支払うのはとてもじゃないですが、私には厳しかったです。ホルモン治療が5年になるか、10年になるか不確実であり、再発のリスクも考えると、自身の生命の維持で手一杯でした。ここまで少子化が問題視されている世の中なのでもう少し制度が充実すればいいなと思います。個人的には家の近くに温存の対応が可能な施設がなかったのも痛手でした。ウィッグについて、支援があるだけ助かるのは事実なのですが、消もう品であるのに1回きり1万円だけだったのが結構厳しかったです。普段はファッションウィッグの安いものでしのいでいますが、仕事に行くときはできるだけ自然に見える医療用を。と思っています。安くても1万6千円ほど。何を使うかは自由なので我儘といわれるとそれまでですが、治療で気分が落ちている分そういうところで負担が軽く気分転換できたらなと思っていたので少し残念でした。

---

## ■ 20代・女性

がんと診断され、職場や家族の理解もあったため、抗がん剤治療中は半年間休職し実家で治療期間を過ごしました。幸いがん保険をかけていたため、治療費のほとんどはそこから出せましたが、保障内容は診断から一年と短いため、一年を過ぎての治療は実質自費で負担しています。私のように保険加入をしていれば金銭的不安も軽減されますが、20代でがん保険に加入しているということは珍しいと思います。収入が減る中で治療費もかかるという心的不安は相当なものです。出来ればもう少し医療費が安くなればと思いました。また、手術後、社会復帰してからも、少し体の不調があれば「薬の副作用ではないか…」とか「もしかして転移／再発かもしれない…」と不安になる時があり、そういう時に医療の専門知識を持った電話相談や対面での相談窓口など、気軽に話せる場があればな、と思いました。また、治療中の外見の変化（脱毛や爪の黒ずみ）に関して、「時間が経てば治る」と言われていたのですが、だいたい良いので「何ヶ月したら戻ってくる」と具体的な数字を言ってもらった方が安心できました。ウィッグに関して、医療用ウィッグばかりを案内され、高額なものを購入しましたが、自分の経験から、ファッションウィッグでも大丈夫だったので、選択肢があれば良いなと思いました。

---

## ■ 30代・女性

がんの治療は体の負担も大きく、思うようにならない 体で肉体的にも精神的にも辛いことが多いです。そういった中で気軽に相談できたり、悩みを聞いていただける病院や支援窓口が充実しているといいなと思います。

## ■ 20代・女性

抗がん剤治療の副作用で歩くのもつらい中、PET-CT検査を受けに高速道路を使って行ったことがあり、とてもしんどかったのが湖北（各地方）にもPET-CTができる病院があって欲しい。ウィッグ助成金をもう少し上げてもらいたい。もしくは、1人1回の制限を、再発時にもう1度助成金が受け取れるようにして欲しい。（年齢によっては前回購入したウィッグだと不自然等がありえる為。）高額療養費制度や多数回該当等の制度をまったく知らなかったのが、医療費に対する制度を知る機会があれば良いなと思った。（私は会計額が8万から4万になってビックリしたので病院の人に聞いて理解しました。）

---

## ■ 30代・女性

がんになる前から食生活・ストレス・睡眠・自律神経の整え方・腸活など知っておきたいことが沢山ありました。これからは1つでも実践してまわりの人に伝えていきたいと思います。やはり、ショックから数ヶ月なかなか寝れない日々や食欲がなくなる日々を過ごしました。この経験を少しでも今後のため誰かのために役立てようと思います。がん支援センターの看護師さんや通院センターの看護師さんなどをはじめ沢山の方にお話を聞いて頂けて気持ちを前向きにすることが出来ました。ありがとうございます。

---

## ■ 30代・女性

早期発見のためにがん検診はもっと若い年齢から受けられるようにしてほしいです。乳がん検診は現在●●市では40歳以上が対象になっているが、私は30代前半でがんだとわかりました。それまでがんという病気は身近なものではなく、自分で胸に感じたいわかんも、子育ての忙しさにおわれて、いったん気がつかないフリをしていました。家族の助言がなければ、もっと長期間放置してとり返しのつかない段階になっていたと思います。どうか、もっと早く、気がつけるようにしてください。がんだとわかってショックでしたが、本人である自分よりサポートすることになる家族のことが心配でした。子どもにはどうやって伝えようか…夫の落ちこみなど。でも前向きに生きるしかありません。「残りの人生は自分と家族のために全力で幸せにいきよう！」と思えたことはがんになって唯一？よいことでした。がん患者や家族が楽しく生きていくために経済的支援があれば嬉しいです。が…生きているだけでありがたいです。

---

## ■ 30代・女性

のこしていく子供に、不安がつのります 私がいなくなったら彼らはどうなるのか心配でガンがにくいなと感じます

### ■ 30代・女性

月額の上限制度、妊孕性温存の支援等たくさん助けていただきました。●●(病院名)での対応にも不満は一切なく温かなスタッフさんに恵まれました。この上なく幸福で満足した生活を送れています。今まで携ってくださった皆様に感謝しています。どんな方がこの文を読むのか不明ですが、あなたが行っている事象が、誰かを救い心の安寧を生むと思います。お仕事お疲れ様です。自分を大切に。がんばっていきましょー♡

---

### ■ 30代・男性

医療費が高額になるので、公的な支援制度があればいいと思った。(民間の医療保険のがん一時金のようなもの)マイナンバーカードを使っているのに病院と薬局の高額医療費の算定が別で(あとで返ってくるけど)びっくりした 抗がん剤が昔より副作用が軽くなったから?入院せず仕事する人も多いときいて、そのとおりしたけど、気持ちわるすぎて1Wで5kg近く減、入院するか仕事休みにしてほしかった 病氣有休みたいなのがあるといいと思った。

---

### ■ 30代・女性

働く世代や子育て世代のガンについて、情報が少ない、不安や相談を話す先が分からない。今後の経済的な心配や子どもに対しての不安が大きかった。

---

### ■ 30代・男性

がんの治療については、病院の医師や看護師のみなさん、医療の進歩に感謝。精神的、経済的に支えてくれた両親に感謝。がんの治療によって、大学を留年することになった。さみしさや辛さはあったが、他の人にはできない経験をすることもできたとも感じている。

---

### ■ 30代・女性

①がん患者に対して医療従事者がもっと寄りそう(寄りそうと努力する)ことが大切だと思います。がんという大病をもっている患者が医療従事者に対して話しやすい環境を作った方がいいと思います。②がんになったことを受け入れることを第1にしました。私は周りの人達にとっても恵まれています。でするのでとても苦しい治療も受けることが出来ていると思ってます。1番は家族に感謝をしています。これからもつらい治療がありますが、頑張っって乗り越えていきます。がんばりすぎないようにがんばります!!

### ■ 30代・女性

子どもがまだ幼い（●歳）なので、入院・手術・治療・がんのことを図書館の本で説明した。「お母さんは、ここ（子宮）赤ちゃんのお部屋にすごく強いバイ菌がいて、めっちゃ強いお薬とレーザービームをしないとバイ菌に勝てない。赤ちゃんのお部屋がなくなっちゃうけど、お母さんがずーっと元気でいられるように、お薬とレーザービームがんばるね。もしかしたら、すごく元気な日もあれば、全然パワーがない日もあるかもだし、髪の毛もハゲになるかも。でも、元気になったらいつものお母さんに戻るし、髪の毛もはえるよ！応援してね」とがん宣告をされた日に子どもに説明した。子どもながらに理解したようで、号泣しながら「ハゲいや。赤ちゃん生めなくなるのイヤ。お母さんのバイ菌イヤ。元気なお母さんに戻ってよ」と大泣きだった。でも、治療中の今ではたまに一緒に通院したり、家事を手伝ってくれたり、洗たく物を干してくれたり、1人の立派なサポーターとなって来てとても心強い。子どもの為に、辛い治療をがんばっている。また、主人もとても協力的で家事・育児を積極的にしてくれている。仕事を休んでくれる日も多々あり感謝しかない。友達も私の体調をきにかけて、子供だけを連れて遊びに出かけてくれたりと、本当に感謝。がんの治療は患者本人だけの問題ではない。周囲の人々に支えられてなりたっている。私のがん治療にかかわってくれている、病院スタッフ、家族、友人職場全ての人へ感謝の気持ちでいっぱいです。元気になってみんなに恩を返したい。がんばる!!

---

### ■ 30代・女性

院内の相談で精神的なしんどさは軽減されたと思います。また、患者会の存在もありがたかったです。がんの診断前から家族と折り合いが悪く、病状説明の際など、同席してもらうことに負担がありました。病気かつそうした家族の諸問題について、相談できる場を診断すぐから分かりやすく提示してもらえるといいなと思います。また、県内にトラケクトミーができる病院があれば、自分の治療方法もちがっていたかもしれません。トラケクトミーの案内はありましたが、通院先では、詳細は分からず自分の選択肢からは除外しました。

---

### ■ 30代・女性

私自身は、見つかってすぐに腹腔鏡手術で摘出して頂き、現在も再発なく、経過観察をしていて、がんとの日々はそれほど長くない為、あまり参考にはならないかもしれません。しかし、入院中に抗がん剤治療を受けておられる方と出会い、治療中に辛そうにされている姿を見ることがありました。その方は前向きな方ではありましたが、話を聞いたり、支えてくれる人がもっと多く居れば、治療中の辛さも緩和されて更に前向きになれるかなと感じました。

## ■ 30代・女性

がんになったのは●●歳の時でした。幸いにも悪性度の低いがんでしたが、CTによる被曝のことなどが気になったりして不安になることが多いです。特にSNSでの情報が多く何が正解か分からない世の中です。SNSがよい時もありますが、何を信じていいのかわかりません。医療の正しい情報をもっと発信して欲しいです。被曝の安全性や、抗がん剤治療のことなどを正しく発信されないと助かる命が助からないことも増えるかもしれませんね…。医療関係者の方には感謝しています。